

## 研究計画概要

|             |  |
|-------------|--|
| 助成年度・種別     | 2019年度 一般研究助成  |
| 研究代表者       | 仲野 由佳理   |
| 所 属         | 日本大学   |
| 研究テーマ       | 矯正施設からの社会復帰における当事者参加型多機関連携体制の構築に関する研究  |
| 研究計画概要      | <p>本研究の目的は、北欧の刑務所で実施されているリフレクティング・トークに着目し、その構造と要素を活用した当事者参加型の多機関連携の理論と方法の検討、実践化に向けた多機関連携教育プログラムの開発・実施・評価を行うことである。</p> <p>リフレクティング・トークは、「トライアローグ」という構造が内的対話の促進の機会を提供し(矢原 2018)、精神科医療領域における多職種連携で注目を集めるオープンダイアローグの中核技法として位置づけられている。本研究は、矯正・保護関係者及び福祉・教育関係者へのインタビュー調査及び北欧の刑務所におけるフィールドワークを通して、支援者に依存的な一方通行の関係を見直し、誰もが「立ち直る主体」として参加する空間作りを目指す。特に、非行少年／犯罪者の社会復帰に関連して、各専門家の職域や職命に対する理解不足、矯正施設に特有の制約や制限、それに伴って生じる「すれ違い」など、多機関連携をめぐる様々な問題が生じている(仲野ほか 2018)。これらの問題の緩和と少年や家族の「立ち直り過程に対する主体性/当事者意識」を培うための、当事者参加型の多機関連携の理論と具体的な実践の方策を提案する。</p> |
| 選考委員からのコメント | <p>非行少年／犯罪者の社会復帰を支える多機関連携は、近年の刑事政策において重視されてきている。この研究計画は、北欧の刑務所で実施されているリフレクティング・トークに注目して「当事者参加型の連携」を探るものである。施設から社会に戻って以降の孤立をどう防ぐかは、再犯防止の重要なポイントであり、わが国において実効性をもつプログラム開発ができることを期待している。</p>   |